

第4問 (20点)

無限列車工業の8月中の以下の〔資料〕にもとづき、以下の問に答えなさい。

〔資料〕

1. 材料費に関するデータ

- (1) 素材費：月初有高 45万円、当月購入代価 2,220万円、当月材料副費 40万円、月末帳簿有高 42万円、月末実際有高 40万円

(注) 素材費は 60万円が間接材料として消費され、それ以外はすべて直接材料として消費された。

- (2) 補修用鋼材費：月初有高 20万円、当月仕入高 80万円、月末有高 15万円
(3) 製造用切削油、電球などの当月における購入額 11万円

2. 労務費に関するデータ

(1) 直接工に関するデータ

- ① 直接工の消費賃金の計算には、実際消費賃率を用いて計算している。
② 前月末払高 80万円、当月支払賃金 750万円、当月未払高 72万円であり、総就業時間の内訳は直接作業時間 4,500時間、間接作業時間 2,000時間、手待時間 500時間である。

(2) 間接工の当月要支払額 20万円

3. 経費に関するデータ (上記資料で判明するものを除く)

- (1) 水道光熱費：支払額 30万円、測定額 25万円
(2) 前払保険料：当期首における1年間の前払額 96万円
(3) その他の間接経費：1,200万円

4. 製造間接費に関するデータ

当月に生じた予算差異 80万円 (借方差異)、操業度差異 4万円 (貸方差異)

5. その他のデータ

- (1) 月初有高：仕掛品 520万円、製品 380万円
(2) 月末有高：仕掛品 600万円、製品 500万円

問1 〔資料〕1. (1)における材料購入時の仕訳を示しなさい。なお、当月購入代価の支払は、掛け取引により行われており、当月材料副費は現金で支払っている (材料副費勘定は設けていない)。

問2 製造間接費勘定および仕掛品勘定の作成を行いなさい。

問3 当月における売上原価の金額を算定しなさい。

第 5 問 (20 点)

キメハラ株式会社の G 工場では、製品 X を生産している。製品原価の計算には累加法による工程別総合原価計算を採用しており、第 1 工程の始点で A 原料費、50% の時点で B 原料費を投入し、第 1 工程完成品をすべて第 2 工程に振り替えている。また、当月には第 1 工程の終点と第 2 工程の途中点で正常仕損が発生しているため、度外視法により適切に処理する。なお、払出単価の計算には第 1 工程は先入先出法、第 2 工程は平均法を採用している。以下の【資料】にもとづき、答案用紙に示された各金額を答えなさい。

【資料】

1. 製品 X の生産データは次のとおりである。なお、() 内の数値は加工進捗度を示している。

第 1 工程		第 2 工程	
月初仕掛品	500 個 (40%)	月初仕掛品	450 個 (80%)
当月投入	2,500	当月投入	2,200
合計	3,000 個	合計	2,650 個
正常仕損品	200	正常仕損品	150
月末仕掛品	600 (60%)	月末仕掛品	500 (70%)
完成品	2,200 個	完成品	2,000 個

2. 月初仕掛品原価と当月投入原価は次のとおりである。

(1) 月初仕掛品原価

第 1 工程：A 原料費 610,000 円、加工費 196,000 円

第 2 工程：前工程費 1,476,000 円、加工費 326,400 円

(2) 当月投入原価

第 1 工程：A 原料費 3,000,000 円、B 原料費 2,400,000 円、加工費 2,560,000 円

第 2 工程：前工程費（各自計算）、加工費 2,033,000 円